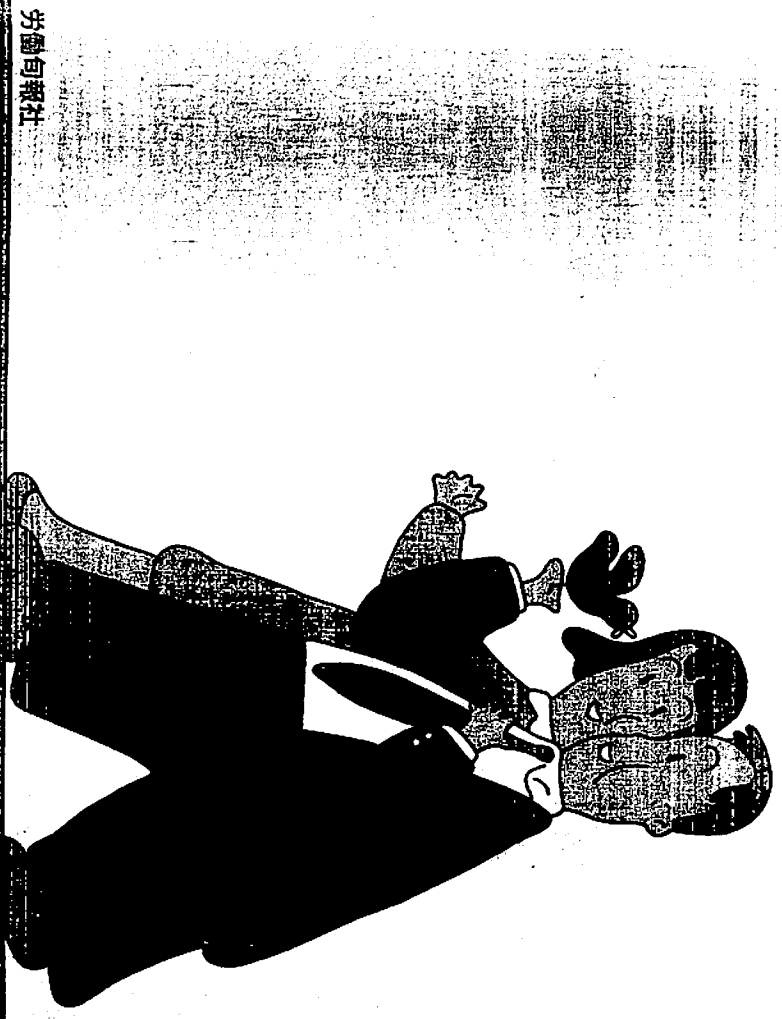
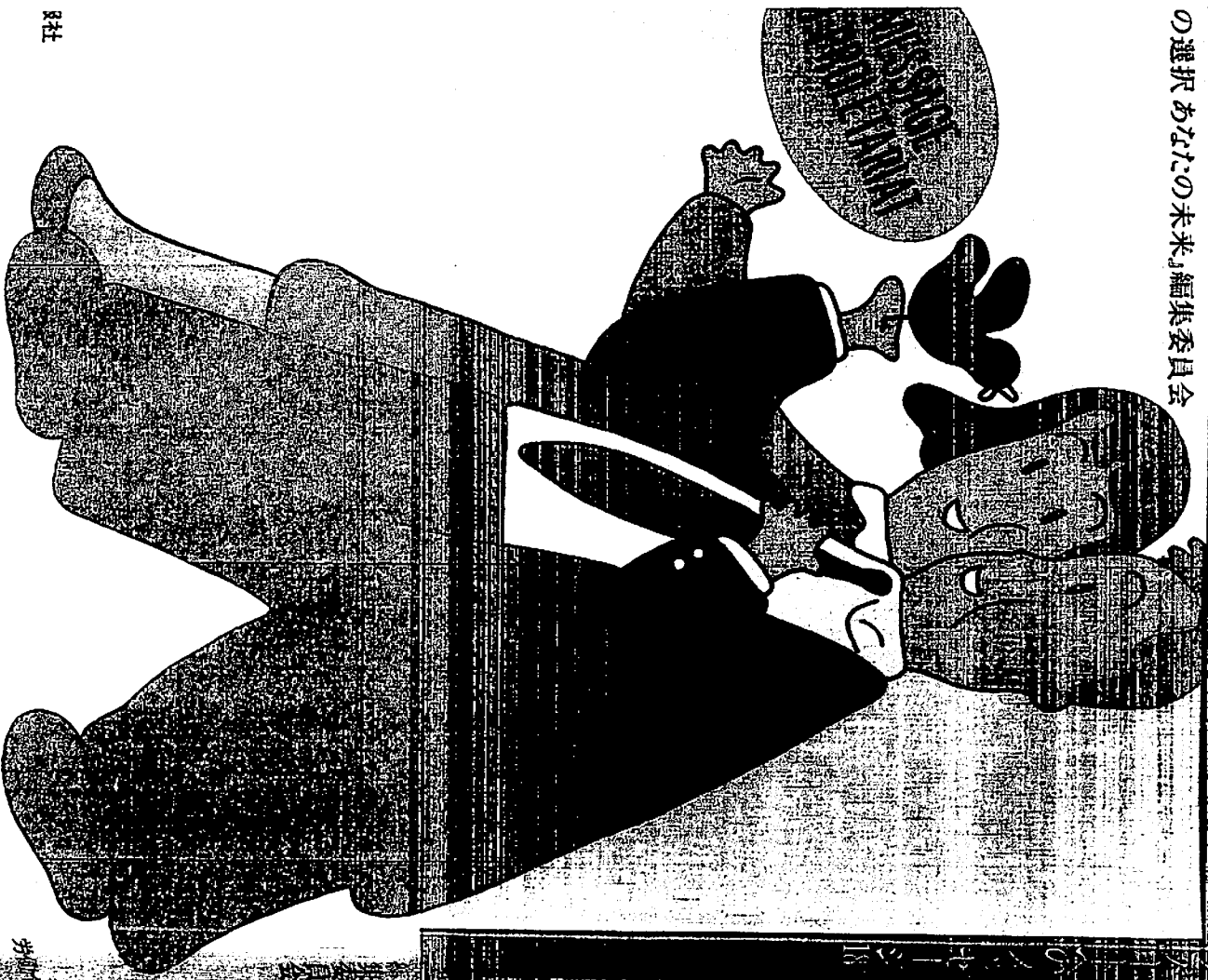


たのびの選択 あなたの未来

ロバート・ノックス 著 2184

の選択 あなたの未来 編集委員会



労働旬報社

ISBN4-8451-0008-8 C3036 ¥1500E

定価1,500円

発展し、力強くなったのだろうか。一面たしかにそうは言えるが、一方、個性、型はまり、空虚感……などという
 ことには代表されるような奇妙な雰囲気はたらく人びとの間に漂いだしていることもしかた。強靱なハネの如き
 伸力もなく、ドタツとした一種の疲労がないとは言えない。

それは組合に結集する人びとのみならず、我が国の現在の思想界にも、あるいは未来をなすの若者たちにも
 あたかも暗く憂鬱な雲の如くまとわりついている空気である。各種選挙の度に多くなつてゆく乗権者。昔問伝え
 るところによれば、投票に一所懸命になる人間は「ホクラ」「グサイ」とのレッチルをはられるのが若者の風潮であ
 るとか。

未来は消えたか。はたらく者の躍動する志はもはやないのか。否、いまなお大空を見上げ、胸をはる人たちはなお
 健在である。あるいは、ただいまは屈して嘆きのうちに吐息をつく人びとも、心のどこかには、より強くよりたくま
 しく生きることへの憤れを確固として保持しつづけている。

その人たちに語りかけよう。ともに手を組み生きよう。思い高らかに、我々の力を信じつづけよう。そう思惟する
 多くの人がびとがいまここにそのことを悔いめいに発した。何と多くの人たちが珠玉のことばをつらねてくれたこと
 か。おのがじの人生からつきぬげるその人ならではの思いとことばの世界がここにある。メッセージを送った人も
 受けとった人もこの書ではともに生きているのである。戦後の意味がここでは生き生きと輝いている。稀有な本が思
 いもかけず出来上がったことを喜びつつ、さらに読者もまたそのことばにひびきあう生を問われることを心から祈る。

『わたしの選択 あなたの未来』編集委員会

戸木田嘉久 木津川 計

本多淳亮 村上恭介

寿岳章子 小林康二

あなたとわたしの対話

目次

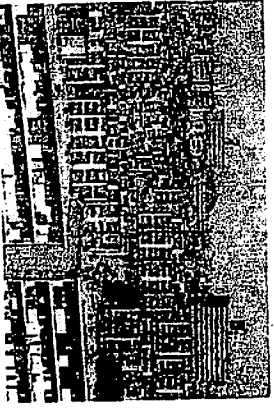
機械化する心の危険……………	井口 察子 作家……………	21
みずから生きること、ともに生きること……………	一番ヶ瀬 康子 日本女子大学教授……………	22
対話の創造力……………	及川 和男 作家……………	24
未来の対等社会へむかって……………	岡部 伊都子 随筆家……………	26
使い捨て時代……………	尾崎 千秋 放送タレント・大阪府陸女 子大学講師……………	28
食華・家族は文化継承の場……………	小山内 美江子 シナリオ・ライター……………	29
平和のアンカーに……………	早乙女 勝元 作家……………	31
サエナイ人間こそ個性がある……………	ジエムス 三木 シナリオ作家・歌手……………	33
ニューヨークはアメリカではない……………	茂山 千之丞 狂言役者、演出家……………	35
人生は“闘争”である……………	芝田 進午 広島大学教授……………	36

「現代」をとらえなおす

あなた、あいさつする人？ 受ける人？	38
舞岳 電子 京都府立大学教授	38
社会を変革するのは	40
住井 すす 作家	40
「ヘルシー・ミドル」の未来	42
田北 亮介 龍谷大学教授	42
永井 智雄 新劇人会議 俳優座	43
「フレイムツア」の潮流	43
変わらない日本人	45
西村 京太郎 作家	45
誕生を越える価値	47
沼田 稻次郎 都立大学名誉教授、国際法 主法律家協会会長	47
女と仕事	49
藤本 統紀子 エッセイスト	49
精神と気概	50
丸岡 秀子 評論家	50
わが町を愛える楽しさ	52
山口 勇子 作家	52
三浦事件と人権感覚	54
和久 峻三 作家・弁護士	54
間違いの来し方、不安の行く末	56
和多 田勝 エッセイスト	56
怒りを束ねて未来を創る	61
秋葉 英則 大阪教育大学教授	61
「いじめ」を破る運動と中小業者	62
入谷 勲 大阪商工団体連合理事長	62

目次

7	いまの時代をどう見るか	黒田 了一	元大阪府知事	87
85	非核政策のかぎりなき後退	具島 兼三郎	元長崎大学学長、九州大学 名誉教授、長崎大学名誉教授 文化研究所長、法学博士	85
84	現代日本社会と労働組合	北野 弘久	日本大学法学部教授	84
82	変化するものと変化しないもの	北田 寛二	労働者教育協会副会長	82
80	「中流意識」からの解放	木津 川 計	「上方彦地」編集長、立命 館大学教授	80
78	NITと情報通信産業の新局面	磯我 壮一郎	学名譽教授、大阪市立大 専修大学教授	78
76	孤立を恐れず正論を	亀田 得治	弁護士	76
75	核時代をどう生きるか	岡倉 古志郎	長 アジエ・アフリカ研究所	75
73	働くものの未来への選択	岡 映	全国部落解放運動連合会 中央執行委員長	73
71	次代への期待のために	大岡 敬治	漢学家	71
69	好きな言葉二つ	江口 英一	中央大学教授	69
67	研究者の自主性の尊重、それは今日の国民的 課題	植村 幸生	産学技術論 阪南大学教授、工学博士	67
65	確実に近づいている労働者の時代	岩尾 裕純	中央大学名誉教授	65
64	「天皇制」と現代	岩井 忠熊	立命館大学教授	64



労働の変化をみつめなおす

中小企業の地位と労働組合…………… 相田利雄 法政大学教授…………… 140

健康をまもる共同をつよめよう…………… 相沢与一 福島大学教授…………… 139

円高と中小企業…………… 渡辺 睦 明治大学教授…………… 134

現代の産業構造の危機をみつめよう…………… 山本 博 弁護士…………… 132

自由を我等に…………… 山口 孝 明治大学教授…………… 130

「危機対処」の二面性…………… 森 英樹 名古屋大学教授…………… 129

二世紀に向けた労働者のたたかい…………… 室井 力 名古屋大学教授…………… 127

一科学者の願い…………… 三宅 泰雄 地球化学研究協会理事兼理事長…………… 125

対話を切り裂く情報システム…………… 水沢 透 評論家…………… 124

文化のなない手となるために…………… 間島三樹夫 文芸事務局長…………… 122

激動の時代を人間らしく生きるために…………… 平井正也 大阪府保険医療協会理事兼理事長…………… 120

愚さを感じない日本人…………… 早川和男 神戸大学教授…………… 118

「経済大国」の虚像と実像…………… 浜林正夫 一橋大学教授…………… 116

人間生活・発達視点でみるなら…………… 佐々木一郎 横浜市立大学助教…………… 89

転換期の目…………… 眞田 是 立命館大学産業社会学部教授…………… 91

詐欺列島と良心…………… 清水 誠 東京都立大学教授…………… 92

「貧困」と危機にどう立ち向かうか…………… 下垣内 博 全大阪消費者団体連絡会事務局長…………… 94

軍拡経済は武器を使わなくても人を殺す…………… 鷲見友好 法政大学教授…………… 95

日本経済の国際化と労働者…………… 清山卓郎 大分大学教授…………… 97

新保守主義経済のゆくえ…………… 関 恒義 一橋大学教授…………… 99

戦後四〇年の日本…………… 田 畑 忍 同志社大学名誉教授…………… 101

いまの時代をどうみるか…………… 辻岡靖仁 労働者教育協会理事兼理事長…………… 102

核自殺を拒否し生命を選択する労働…………… 土山 牧 兼 元大阪基督教短大理事長…………… 104

「経済大国」と日本農業…………… 暉峻 衆三 宇都宮大学教授…………… 106

歴史の前進のために…………… 土井正興 専修大学教授…………… 107

地域づくりと自治の創造…………… 中西啓之 法政大学講師…………… 109

中小企業と倒産…………… 中山 金治 日本大学教授…………… 111

経済危機の「周辺化」に対処する労働運動…………… 永山利和 日本大学教授…………… 112

文化をめぐって…………… 浜島 康弘 名古屋青年合唱団団長 本のうたごえ全国協議会幹事長…………… 114

日本の労働組合運動—現在と未来

少数支配は強かりの衣をかざる……………青木 謙 シヤニリスト(フリ) …… 195

障害者の所得保障改善の要綱……………渡辺 清 社会保険労務士 …… 189

ある大企業労働者の思い……………元島 邦夫 埼玉大学教授 …… 188

働く者の五つの権利……………三好 正巳 立命館大学経済学部教授 …… 186

西欧の不安定労働者とともに……………三富 紀敬 鶴岡大学助教授 …… 184

働く者の権利とモラル……………松岡 三郎 明治大学名誉教授 …… 183

産業別賃金停止の条件……………牧野 富夫 日本大学教授 …… 181

この時代に生きることと大団に……………細川 汀 京都府立大学教授 …… 179

「国内市場拡大」と「春闘」……………藤本 武 前日本女子大学教授 …… 178

ME「合理化」と「高度情報化社会」論……………原 嘉彦 九州産業労働科学研究所 所長 …… 176

情報化社会への適応不安と労働者の未来……………成瀬 龍夫 滋賀大学助教授 …… 174

技術革新への視点……………仲村 政文 鹿児島大学教授 …… 172

労働組合運動の現在……………寺沢 勝子 弁護士 …… 170

10. イギリスのパラから「日本的労働関係」を考

労基法採録阻止闘争の視点……………青山 茂樹 鶴岡大学助教授 …… 142

労働と生きがい……………浅井 清信 立命館大学名誉教授 …… 143

技術革新の流れと労働運動……………板原 克介 岸和田障害者共同作業所 所長 …… 145

企業社会民主化への提言……………角瀬 保雄 法政大学教授 …… 149

労働の人間化……………片岡 昇 京都大学教授 …… 151

私たちのくらしは、いま……………金持 伸子 日本福祉大学教授 …… 154

「人間らしく働く」ということは……………木元 進一郎 明治大学教授 …… 155

労働・生活・意識・生活の全面的な見直しを……………京谷 栄二 横浜市大他非常勤講師 …… 157

ME化の成果を私たちの手に……………伍賀 一 道 金沢大学経済学部助教授 …… 159

女性労働者の権利発展について思うこと……………坂本 福子 弁護士 …… 161

明日への精神……………坂寄 俊雄 日本福祉大学教授・立命館 大学名誉教授 …… 163

A君の死をめぐって……………佐古 田好一 同校研代表幹事 …… 164

ME革命と労働者……………高橋 祐吉 専修大学助教授 …… 166

「働き盛り」の健康と労働者の運動……………田尻 俊一郎 寝協社会医学研究所長 …… 168



日本労働運動に未来はあるか…………… 藤本 正 弁護士・総評弁護団副会長…………… 248

日本の労働組合に望むこと…………… 畑田 重夫 労働者教育協会会長…………… 246

労資運命共同体からの脱却…………… 野村 拓 大阪大学医学部助教授…………… 245

労働組合再生への道…………… 西谷 敏 大阪市立大学教授…………… 243

いま、労働運動に求められているもの…………… 中原 弘二 佐賀大学経済学部教授…………… 241

いま、大切なこと…………… 豊川 義明 弁護士…………… 239

人づくりとしての労働運動…………… 高沢 賢治 一橋大学教授…………… 237

あるスローガンの理解について…………… 戸木 田嘉久 立命館大学教授…………… 236

文化と文化問題につよくなること…………… 土井 大助 詩人…………… 234

作家の組合…………… 寺島 アキ子 脚本家…………… 232

人間らしくということ…………… 田沼 肇 法政大学教授…………… 230

労働組合にのぞむこと…………… 高田 求 労働者教育協会常任理事…………… 228

一労働問題研究者の意見…………… 高木 啓夫 法政大学教授…………… 227

民間活動家集団と連携を…………… 芹沢 寿良 高知短期大学教授…………… 225

いまこそ労働者自身の手に「文化運動」を…………… すずきよし 作曲家・シンガーソングラ…………… 223

甲子年型労働組合運動の発しと展開…………… 大塚 雄三 阪南大学教授…………… 222

二つの論文から…………… 板垣 保 シヤイナリスト…………… 196

若者たちの心に労働運動と協同を…………… 今崎 暁巳 ポキヤメント作家…………… 201

心を灼く運動を…………… 伊東 壮 山梨大学教授…………… 200

「自由民権百年全国集会」を開催して…………… 大石 嘉一郎 東京大学教授…………… 203

労働運動は太陽である…………… 大石 重一 全国老後保障地域連絡会代 表委員…………… 205

権利闘争の貧困と克服のために…………… 大川 真郎 弁護士…………… 206

「国際化」のなかの日本労働者階級…………… 加藤 哲郎 一橋大学助教授…………… 208

これからどうする、労働組合…………… 木下 武男 法政大学講師…………… 210

労働組合運動を再生させるもの…………… 栗田 健 明治大学教授…………… 211

労働組合運動の法則的發展に関連して…………… 小林 勇 国際労働運動研究者…………… 213

ひとつの肉声を…………… 小林 久三 作家…………… 215

「母さんの樹」が語りかけるもの…………… 塩田 庄兵衛 立命館大学教授…………… 216

「生活者」としての自立…………… 重森 暁 大阪経済大学教授…………… 218

階級披散状況と労働運動の再生…………… 清水 慎三 元信州大学教授…………… 220

労働者は子に何を遺すか……………274
 荒又重雄 北海道大学教授……………274

「相互扶助」を私たちの手に取り戻そう……………275
 池田敬正 京都府立大学教授……………275

労働者の家庭があふない……………277
 石田一宏 新松戸診療所所長・医師……………277

働くものの教育の要求を……………279
 大槻健 早稻田大学教授……………279

立ち止まる時間と空間を……………281
 かたかしょう 劇作家……………281

地域協同社会に生きがいを……………282
 勝部欣一 日本生協連副会長……………282

地域と文化のころ……………284
 門倉映 詩人……………284

現代生活と子ども……………286
 川合章 埼玉大学教授……………286

地域からのミニアム保障運動を……………287
 河合克義 明治学院大学助教授……………287

今日の生活と文化……………289
 小溪住久 美術家……………289

子どもたちの夢・働く者たちの夢……………291
 後藤竜二 児童文学作家……………291

ARCIと日本の文化協同について……………292
 佐藤一子 埼玉大学助教授……………292

保育所は働く者の啓……………294
 清水住子 堺・いづみ保育園園長……………294

「高齢化家族との対決」……………296
 住谷颯 同志社大学教授……………296

特攻精神と遊び……………297
 芹沢憲一 小豆沢病院長……………297

「弱者」との連帯……………299
 高谷清 第一びわこ学園園長……………299

家族・家庭・生活づくり

労働組合は生活者たる労働者の要求に応えよ……………250
 船越康亘 全大阪借地借家人組合連合会事務局長……………250

企業の競争原理に歯止めをかけられる労働組合を！……………253
 本多淳亮 大阪市立大学教授……………253

職場活動の再構築を……………255
 松尾洋 労働運動史研究者……………255

イタリア労働運動における「下からの統一」……………256
 松田博 立命館大学教授……………256

と文化の問題……………258
 長い戦後の、いま、なにを？……………258
 道井直次 関西芸術座・演出家 全国児童・青少年演劇協議会委員長……………258

働くものの全生活を視野に……………260
 望田幸男 同志社大学文学部教授……………260

いま、労働組合運動に期待したいこと……………261
 山口定 大阪市立大学教授……………261

労働運動に「教育」を……………267
 青木一 教育評論家……………267

生活の質、文明の質……………268
 実秋間 東京都立大学教授……………268

健康について……………270
 朝倉新太郎 大阪大学教授……………270

きまほどどんな親になりたいか……………272
 荒木昭夫 日本児童演劇・劇団協議会事務局長……………272



「豊かさ」の実感は…… 301 詩人 滝いく子

労働者は夜、なにをしようか…… 303 著者 露乃五郎

視野をひろく、「表現」をもつ…… 304 作家 早船ちよ

健康づくり新ルネッサンス…… 306 国立公衆衛生院衛生行政室 日野秀逸

人生って分らんもんや…… 307 体験語り 著 日比野都

疎外された愛をとりもどすために…… 309 札幌学院大学教授 布施晶子

子どもの生活と健康の現状と課題…… 310 みなみ子ども診療所所長 堀江重信

様変わりした今日の労働者世帯生活…… 312 上智大学助教授 松崎榮太郎

子どもの実質、家庭の変化…… 314 和光学園校長 丸木政臣

近代日本の教育を知り考えること…… 315 東京都立大学教授 山住正巳

労働の現場から、生活者として…… 317 日本母親大会連絡会役員 山家和子

人間らしく子どもを育てるために…… 319 大阪体育運動連絡会副会長 横田昌子

個性的表現を大切に…… 320 ヲシトマエノ 教授 アンガ家・京都精華大学教授

青年・女性の未来に語りかける

次の世代をになうびと…… 325 東京教育大学名誉教授 家永三郎

きらめく知性とイキキ行動を…… 326 新日本婦人の会会長 石井あや子

高齢化社会と女性…… 328 評論家 石垣綾子

新しき明日…… 330 歌人 碓田のぼる

国家秘密法反対運動のなかで…… 332 東北大学教授 小田中聰樹

等しく愛と知性を…… 334 都市計画家 角橋徹也

新しい状況に正面から立ちむかおう…… 336 名古屋大学教授 北川隆吉

青年の心を動かそう！…… 337 早稲田大学教授 北村 実

ただかいは、これから…… 339 日本婦人団体連合会会長 柿田ふき

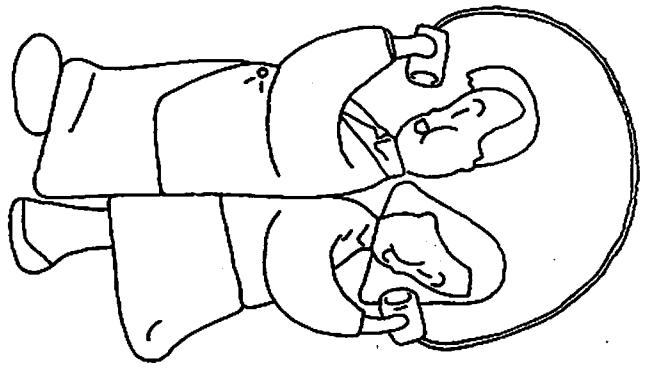
平和を守りつづける誓い…… 341 早稲田大学教授 黒木三郎

私の労働者意識…… 342 クレイト・エッセイスト 小山乃里子

男女の同権を…… 344 東邦大学客員教授 猿橋勝子

17 閉き始めた女性のチャンス…… 346 エッセイスト・作家 下重暁子

あなたとわたしとの対話



主婦にとって労働組合.....	348
菅原 藤子 大阪母親連絡会委員長.....	348
林 直道 大阪市立大学教授.....	349
事実に即して青年と対話を.....	349
女の涙の意味を知ろう.....	350
増田 れい子 ジェイ・ナリスト・毎日新聞「女のしんぶん」編集長.....	350
戦争を知らない若い世代.....	352
山口 正之 大阪経済法科大学教授.....	352
若い世代との対話の可能性を求めて.....	354
横井 芳弘 中央大学教授.....	354
青年の可能性への信頼とは.....	356
吉井 清文 関西勤労教育協会会長.....	356
付録.....	359
あとがき.....	367

るい教養と社会的常識、マナーを備える日常の努力がなければ、労働組合が社会的評価を高めることができなと考える。また、資本が優秀な人材を金でかかえ、労働者にたいする「合理的」支配をつねに企んでいる状況下で、実務能力を高めたければ本刀打ちできそうにない。その一つであることであろうか。

第三に、争議組合、とりわけ大企業を相手として勝利してきた倒産争議組合のたまたかの教訓を学ぶ必要性である。ここには回結を固めるための頑ぐましい努力があり、全員参加のための周到な配慮がみられる。大企業を大衆的に包囲し、孤立させるためにみずから頭で学び、考え、上部組合に甘えない自主性がある。みずからの要求と大衆的要求を結合させ、地域にあっては地域の諸闘争の中心に座を占めたがらばりがある。そしてなにより、人間の尊厳に根ざし、人の心をうつ運動を展開してきた美しい姿があるからである。

「国際化」のなかの日本労働者階級

「国際化」は、今日の日本資本主義の動態を示す、キー概念の一つである。かつて、一九六〇年代に「貿易・為替・資本の自由化」が語られていたとき、そこには、外国商品・資本の国内流入による「外庄」のイミージをとまっていた。今日の「国際化」は、ある意味では正反対である。それは、輸出中心の経済大国化・先進国化をよまへ、つよまる世界各国との経済摩擦のなかで、いか

に日本資本主義がいつその對外進出をすすめ、それを可能とする国内的条件をつくるかにかかわっている。すでに、日本商品は世界をおおいつくした。それも、次つぎに世界中で現地生産をすめている。独占資本はいまや多国籍企業化し、中小企業の海外進出も珍しくはなくなった。在外日本企業は、アメリカ人やヨーロッパ人をふくむ外国人労働者の雇用者である。しかし日本の企業内労働組合が、在外日本人労働者のことばかりでなく同一資本下の非日本人労働者の組織化にとりくんだという話はあまりきかない。外国には産業別労働組合がありそこに組織されているから、というのはいつの答えである。しかし問題の要点は、企業内組合主義が、資本と労働力の「国際化」のなかで、日本人常雇労働者だけのための利益組織という本質を暴露せざるをえないということだ。私は労働組合運動を専門に研究してきたわけではないから、印象批評にならざるをえないが、日本の労働関係の雑誌などをながめてみると、「国際化」への関心はたしかに高まっている。円高「合理化」にいかに対処するか、海外現地生産は国内での失業を招くのではないか、労働戦線統一と関連して新ナショナル・セントラーは国際自由労連加盟になるのではないか、資本の海外進出にたいして組合はどのような態度でその規制できるのか、労働者の海外赴任のさいにどのような条件を保障させるのか、等々。しかし、なにかが欠けているような気がしてならない。日本資本主義がこれまで大きくくなった段階で、日本人労働者、それも企業単位での「社員」たちだけの利益を守るために組織である労働組合とは、いったいいかなる意味をもつのだろうか、と。資本の「国際化」をたいして、労働者階級の「国際化」は、幹部の視察・交流とパトリーの繰り返していいのだろうか、と。地域住民運動や婦人・平和運動は、非核自治体づくりなど、国家の枠を超えた交流をすでにすすめてきている。最近の新入社員の四割近くは海外旅行を経験済みというデータもある。在外日本人



かとうてつろ
一九四七年一月生れ
一橋大学助教授

加藤哲郎

の数は、まもなく「ひとさし指の自由」を奪われた在日外国人の数に近づいていく。階級的「国際化」政策をもたない労働運動は、ますます「冬の時代」に近づいていく。シヨナリスムのわなにとりこまれてしまつてあろう。

これからどうする、労働組合

日本の労働組合運動の舞台は、一九七五年を境に暗転してしまつた。春闘は、七五年に政府・財界力で抑え込まれてから、毎年「敗北」の山を築いている。七五年のスト権ストにたいしても政府はつよい姿勢でのぞみ、ストはなんらの成果をうることなく挫折し、これを契機に、総評は、これまでの総評運動を再建する方向ではなく、労働戦線の右翼的再編に、みずから突きすすんでいく。また、この時期から、政府・財界による公務員攻撃が激しくなり、官公部門労働組合は国民との分断政策の前に守勢に立たされている。労働組合の組織率の低下も七五年から始まり、今日も低下しつつけている。労働組合の地盤沈下は目をおろすべきものがある。

それは、決して一時的な後退ではない。労働組合の構造的危機ともいえる。なぜか。企業の側は、民間大企業での労働者の支配・統合を高度成長のころから営々とすすめ、労働者層の潮流を育成してきたからである。その民間大企業労働者が官公部門労働者を孤立させ、そのうえで隘路行軍路線がすめられている。企業の側が民間大企業労働者を握ることによつて、あたかも日本の労働組合と労働者全体を支配しえたかのような構図ができていく。これは、状況をあまりにも暗く描きすぎているかもしれないが、しかし、現実を、主体形成を、楽観主義で塗り込めてはならないと思う。容易で

はない。

われわれは、高度成長期の春闘の華々しい高揚や賃上げの成果を思い、それが、再現され、そのなることが労働組合の再生だ、もし考えるならば、それは誤りだと思ふ。高度成長期の春闘ではなく、もつとそれ以前を考えるべきではないか。「企業別労働組合の脱皮」や「未組織労働者の組織化」が議論され、なんらかの取り組みがなされた時期が、ほんの一時期だつたが、あった。これは、高度成長と春闘の間、労働組合運動のわきに置きざりにされていたのではなかつたか。この残された古くて困難な課題が、いま、浮かび上がつてきている。日本の労働組合の再生は、全労協系のエニオン・リタイアの克服と、企業別労働組合脱皮と、未組織労働者の組織化、この三つの課題を統一的にすすめるべきでないと思ふ。なぜなら、この三つは密接不可分に結びついているからである。ここに労働組合再生のむずかしさがある。だが、これだけは確実にいえることだが、この労働組合再生は、けつして労働組合レベルだけの問題ではなく、今日、日本の財界が世界に誇る「日本的経営」、さらには日本に特有な大企業本位の社会の仕組みである「企業社会」、これを破砕するに等しい課題である。日本における労働組合の再生とは、かくも大きく、かくも偉大なものとなるだろう。

労働組合運動を再生させるもの

いま世界はかなり着実な足取りで破局に向かつているようである。国際貿易摩擦が大きく取り込まれていくが、これは過剰になつた資本が利潤を生む投資活動を見出さなくなつて、資本主義諸

木下武男

きのしただけお
一九四四年一月生れ
法政大学講師

栗田 健

くりたけん
一九三二年一月生れ
明治大学教授

編集委員会

戸木田嘉久 (立命館大学教授, 1924年生まれ)

本多 淳亮 (大阪市立大学教授, 1925年生まれ)

寿岳 章子 (京都府立大学教授, 1924年生まれ)

木津川 計 (立命館大学教授, 「上方芸能」編集長, 1935年生まれ)

村上 恭介 (逓信省西総局長, 1951年生まれ)

小林 康二 (全大阪金属産業労働組合委員長, 1939年生まれ)

わたしの選択 あなたの未来

1986年6月10日 初版第1刷

編集委員会◎ 戸木田嘉久/本多 淳亮

寿岳 章子/木津川 計

村上 恭介/小林 康二

発行所 柳 沢 明 朗 社
発行所 柳 沢 明 朗 社

東京都文京区日白台2-14-13
電話 03-943-9911 (代)
出版局 0-180374

印刷所 磯 平 文 社

定価はカバーに表示してあります

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写(コピー)することは法律で認められた場合を除き、著作権および出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらかじめ小社まで詳細を承めて下さい。